

2025_1209 「けやき広場」日々の理科 4139号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

お茶の水女子大学にはケヤキの木が多く、特に附属小学校の校庭、附属中学校の前、大学体育館の斜面上の並木道などにかなり立派な自形（じけい）のケヤキがあります。自形というのは、他の樹木や建物に邪魔されず、その樹木本来の樹容に育った木の形状のことです。

職場の研究室前にも、大きなケヤキの木があります。このケヤキも自形に近く、樹齢は恐らく100年を超えているでしょう。毎日子ども園やナーサリーの子どもたちが通りかかり、遊びに寄るので「けやきひろば」という看板を作って吊るしてあります。今の時期、ケヤキはおびただしい量の葉を落とします。となりにはイチョウの木もあるので、それと混ざってこんな具合に積もっています。もちろん子どもたちびとては最高の遊び場で「はっぱのおふとん」と言って、中にもぐって遊んでいます。掃除の方も気を使って、落ち葉を片付けずにケヤキの根元に寄せておいて下さるのです。

私の席は、「熊のステッカー（金沢の大学生作）」の窓のところです。大学一部屋の中がよく見える、超開放的な研究室だと思います。窓を開けておくと、ケヤキの落ち葉で机の上がすぐに一杯になります。

(2025年12月上旬／お茶の水女子大学構内)

